
1 3 年後に伝わる言葉

N澤巧 T 郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

13年後に伝わる言葉

【Nコード】

N4281B

【作者名】

N澤巧一郎

【あらすじ】

階段を登り、楽しいひと時を過ごす、ふと昔の事を思い出した。そこから世界は一変する。

暗く静かな階段を登っていく。ゆつくりと、できるだけ音を立たないように。

階段の終わりに、閉ざされたトビラが静かにたたずんでいる。ノブに手をかけると、冷たい感触が伝わって、心臓の脈が少し速くなった。

どんなにゆつくりあけたところで、音が出るのを知っている。それでもゆつくりと、慎重に開けて、音が出るたびに落ち込むんだ。

にぎやかに光る星の下、昔話に花を咲かせる輪の中へ足を踏み入れた。

「教室にいないからびつくりしたよ」
「いやあ悪い悪い。遅刻王がいたのを忘れてた」

どんなにあの頃より背が高くなり、物事の見方が変わったとしても、ココから眺める景色に違いはなかった。

酔っ払っていたのもあるかもしれない。たまっていた仕事の疲れがあつたからかもしれない。
ただ、立っているのに疲れたんだ。

「なに大の字になってんだよ。酔いつぶれたか」
「オレも疲れちったなあ」
「それじゃあ私も」

空がゆつくりとゆがんでいく気がした。世界が崩れ、新たな世界

「が現れるような。今まで生きてきた世界は偽物だったと告げているような。」

星の光は今にも消えそうにか細くきらめく。しかし、その光は決して闇に溶けようとせず、かたくなに拒み続けていた。

「こんなところ宇宙人に見つかったら、つれてかれちゃうな」
「びっくりして逃げちゃうかもよ。変な集団がいるって」

自分と星とが、どのくらい離れているのか知らないが、地面から約100km上空が宇宙と地球との境目だ。
それを教えてもらったのは、物理でも数学でもない国語の先生だった。

「ん？どうした？手を伸ばして、UFOでもいたか？」
「そうじゃないんだ。先生を思い出したんだ」

目の前に星がある気がした。手を伸ばせば捕まえることができると思った。そう感じたんだ。

「先生か。もういないなんて考えられないけど。いろいろ教えてもらったなあ」

「よく言ってたよね。あのセリフ」
「そうそう。口癖だったよな」

砂粒くらいしかない星を、手で覆い隠して、目の前まで持つてくる。酔っ払っていたからかもしれない。たまっていた仕事の疲れのせいかもしれない。
だけど、確かに握り締める手の中から、かすかな光が漏れていたんだ。

思い出すのは、あの言葉。

『最初に感じたこと、思ったことが一番正しいんだ』

上半身を起こした。感じたんだ。思ったんだ。
立ち上がって確認した。

「おいおいどうした。一番最初にねっころがったと思ったら、もうやめちゃうのか」

どんなにあの頃より背が高くなり、物事の見方が変わったとしても、ココから眺める景色に違いはなかった。はずだった。

「……みんな……見てみるよ。ほら、見てみるって」
「なんだなんだ。やっぱりUFOでもみつけたのか」

一人、また一人と、横に並んでは立ち尽くす。

どのくらいたたずんでいたのだろう。いや、本当に時間は流れていたのだろうか。

ある者が気づき、やっと言葉が発せられた。

「あ」

丸い円盤状をし、軽やかに空中を移動する物体が、遠くのほうから、はじめて見る景色のなかを静かに近づいてきた。

それは物音一つさせず見慣れない校庭へ飛来し、見慣れた痕跡を一瞬にして残した。

そして、見慣れた人影が中から出てきたんだ。

「……せんせい……先生っ」

一人、また一人とトビラを鳴らして降りていく。
いつしか夜が明け、4つの太陽が同時に顔を覗かせ、月が霧のよ
うにぼやけ、黄金に輝く雲へと姿をかえる。

見慣れない花がくるくると回りながら空から舞い降り、一日の始
まりを告げていた。

先生に駆け寄ったみんなの姿は、あの頃に戻っているようだった。

先生。あの時、僕らに言っただあの言葉。

『最初に感じたこと、思ったことが一番正しいんだ』

先生はあの時、僕らに本当はこう言いたかったんじゃないですか。

『もう少し、自分を信じていいんじゃないか』

T h E e N d

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4281b/>

13年後に伝わる言葉

2010年12月17日14時23分発行